

## 2019年度の研究開発実施計画

2019年度、3年次生は大阪府立能勢高等学校生徒、1、2年次生は大阪府立豊中高等学校能勢分校生徒となり、SGH対象生徒は3年次生となる。以下のSGHの取組を実施する。

(1)スープアグローバル(SG)基礎知識講座、(2)スープアグローバル(SG)重点分野講座、(3)海外実態調査、(4)国立プラマレーシア大学でのワークショップ(WS)、(5)海外からの留学生とのワークショップ(WS)、(6)課題研究成果発表会、(7)研究開発成果の普及に関する取組

### (1)スープアグローバル(SG)基礎知識講座(3年次生全員が受講)

次に示す力をつけるため「総合的な学習の時間」で講座を開催するとともに、担当教科が日々の学習活動の中でも取り組む。総合的にグローバルな視点から地域に貢献しようとする意欲を持つ生徒の育成をめざす。年度末に発表会を開きその成果を確認・共有する。

- ・論理的に考え方表現する力・・・国語・英語
- ・データを活用し筋道を立てて整理する力・・・数学・情報
- ・グローバルな視点で課題を把握する力・・・地歴公民・理科・家庭・農業

### (2)スープアグローバル(SG)重点分野講座

3年次生では、環境に焦点を当てることで、能勢地域の環境保全の観点から地域課題にアプローチし、2年次で探求した課題とリンクさせ地域活性化に貢献する。具体的実践活動への参加や、後輩や学校外部への発信を通して、3年間の学びを深める機会とする。

3年次生 [前年度選択科目「スープアグローバルスタディ(SGS)」選択生徒14名]

- ・放課後演習、土曜日講習：  
課題研究テーマ マレーシア「経済発展と自然破壊」—プランテーションと森林破壊—
- ・土曜日等の校外活動：  
地域での成果発表。植林活動など地域の環境保全活動。住民への環境保全啓発活動。

### (3)海外実態調査

実施期間を2019年8月3日(土)～8月8日(木)とする。大阪教育大学 乾陽子准教授の指導のもと、マレーシア サバ州コタキナバル市において熱帯雨林、オイルパームプランテーションの調査を行う。国立プラマレーシア大学(クアラルンプール)での研修とフィールドワークを行う。参加生徒については、SG重点分野講座選択生徒から4名を選抜する。

実態調査を通して、具体的な問題に対する解決手法を多層的・多角的に見ることで、地域課題への共通項を理解し、能勢高校生としての役割や何をすべきかを考える力を身につける。

### (4)国立プラマレーシア大学ワークショップ(WS)

海外実態調査で国立プラマレーシア大学を訪問し、教員及び学生とWSを行う。英語課題研究発表を行い、教員・学生から評価を受ける。より客観性を持った課題研究に発展させる。

### (5)海外からの留学生とのWS

3年次生全員が対象。本校を訪問する外国人学生と交流活動や交換プレゼンテーションを行う。英語での実践的コミュニケーションの機会とするだけでなく、異文化理解やグローバルな課題を考える機会となるようワークショップにおける話題・題材を工夫する。

### (6)課題研究成果発表会

- ・中間発表会(全国公開) 11月8日 SG重点分野講座受講生徒発表
- ・研究発表会(全国公開) 2月8日 SG重点分野講座受講生徒発表
- ・プラマレーシア大学研究発表 8月7日 SG重点分野受講生徒発表(英語)
- ・3年次生校内発表会(能勢地域公開) 1月 3年次生全員が発表  
3年間の取組みのまとめとして課題研究を発表する。

### (7)研究開発成果の普及に関する取組

英語版を含めた本校のホームページ(HP)や本校SGHのSNS(フェイスブック)、関係大学及び機関のHP(大阪大学、菊炭の郷、能勢町、(公社)国土緑化推進機構、(株)マザーハウス等)に掲載し普及を図る。また、能勢町では、商工会・ライオンズクラブ・観光協会・町役場・近隣商業施設にSGH通信を配布し、普及活動を行う。研究報告書については、関係大学及び関係機関、高校へ幅広く配布するとともにHPで公開する。研究開発成果についてはポスター作成等により周知に努め、中間発表会・研究発表会に加え、連携中学校、能勢町議会及び地域住民を対象とした成果発表会を開催し報告する。

また、本校遠隔ネットシステム(ネット教室)を活用し、豊中高校や遠隔他県高校向けた発信、NTT西日本全国イベントにて課題研究を発表する。学校農業クラブ各種研究発表会、ユネスコスクール交流会、近隣地域主催のイベントも積極的に活用する。大阪大学外国語学部での講義に招へいされており、講義にてSGH取組みを発表し、学生、留学生とWSを行う。

\* SGH 後継事業【豊中高等学校能勢分校 1, 2 年次生 (SGH 対象外生徒) の取組み】(2019 年度)

( i ) グローカルスタディー (GS) 課題探究基礎講座 (1, 2 年次生全員)

上記(1) SG 基礎知識講座を後継した講座展開に加え、各教科で日々の学習活動に取り組む。

( ii ) グローカルスタディー (GS) 課題探究重点講座

1 年次生：後期に希望者を募り、土曜日及び放課後に「課題研究講座」「英語プレゼンテーション講座」を開設。2 年次選択科目「プレ課題探究 GS」の事前学習を行う。

2 年次生：通年で土曜日及び放課後に「GS 課題探究重点講座」を展開。後期に（学校設定科目）「プレ課題探究 GS」を開設。3 年次生全員受講「課題研究 GS」への繋がりも見据える。

課題研究テーマ

- ・マレーシア「経済発展と自然破壊」—プランテーションと森林破壊—
- ・地方創生「能勢版シナリオを考える」—再生可能エネルギーと地方創生—

( iii ) 海外調査

① ドイツ ブリロン市：実施期間 2019 年 9 月 1 日 (日) から 9 月 6 日 (金)

② マレーシア サバ州：実施期間 2019 年 8 月 3 日 (土) から 8 月 8 日 (木)

③ マレーシア サラワク州：実施期間 2020 年 1 月 17 日 (金) から 1 月 19 日 (日)

( iv ) 大学ワークショップ

- ・GS 課題探究基礎講座：修学旅行で 2 年次生全員がプラマレーシア大学を訪問。
- ・GS 課題探究重点講座：海外調査にてプラマレーシア大学、ス winnern 大学を訪問。  
モンゴル国立大学、モンゴル教育大学から教員を招くなどの連携。

( v ) 海外からの留学生とのワークショップ

1, 2 年次生全員を対象とし、上記(5)と同様とする。

( vi ) 課題研究成果発表会

- ・上記(6) 中間発表会、研究発表会にて、2 年次「プレ課題探究 GS」選択生徒が発表。
- ・1, 2 年次生校内発表会 2 月 1, 2 年次生全員が発表。「GS 課題探究基礎講座」で課題を認識し、グループで分担して課題研究を進め、発表する。

( vii ) 本校との連携

本校と分校を遠隔ネットシステム（ネット教室）で繋ぎ、情報交換、発表会の参加を行う。

( viii ) 研究開発成果の普及に関する取組み

上記(7) 同様、3 年次生とともに、成果の普及に努める。

\* 2020 年度以降 SGH 後継事業【豊中高等学校能勢分校の取組み】

能勢高等学校 5 年間の SGH 活動を継承し、マレーシアやモンゴルなどの支援活動や調査活動を体験し、「ストリートチルドレン解消」「フェアトレード」「ビジネスによる国際支援」「植林」「農業による自立支援」「教育」などの国際協力のあり方を学び、日本とモンゴル、マレーシアの貧困問題、環境問題を通して能勢町版 SDGs を考え、能勢町の活性化に貢献する。

全学年で、GS 課題探究基礎講座及び GS 課題探究重点講座を実施し課題研究を進める。海外調査については、全学年から参加生徒を選択し、1 年間で次の①～③調査をすべて実施する。

- ① SGH で開発したマレーシア サラワク州、サバ州熱帯雨林調査（修学旅行の前乗り）
- ② フィリピン アブラン市マングローブ植林活動（SGH での連携先「オイスカ」の活用）
- ③ 東南アジア小学校建設スタディーツアー（平田篤州 SGH 運営指導委員紹介による（株）エルセラーン化粧品 CSR の活用）

また、修学旅行時に国立プラマレーシア大学、姉妹校アムンタ高校への訪問交流や課題研究発表の他、長期、短期の留学生受け入れや海外の高校、大学の訪問を受けることで全校生徒がグローバル体験の機会を得る。3 年全員必修科目「課題探究 GS」の活動、遠隔ネットシステムを使用した本校や遠隔地の高校との交流活動なども併せ、課題研究発表会も継続して実施する。

SGH で連携したすべての大学、企業、NGO 等との連携活動を継続する。

事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
(1) 基礎知識講座	能勢高校 等	内田千秋 斎藤友貴
(2) 重点分野講座 ①課題研究 ②英語プレゼンテーション WS	能勢高校 等 能勢高校 等	内田千秋 富樫 明 井田周子 田中翔一郎
(3) 海外実態調査	マレーシア	富樫 明 田中翔一郎
(4) プラマレーシア大学 WS	マレーシア 等	富樫 明 田中翔一郎
(5) 留学生との WS	大阪大学・大阪国際大学 等	内田千秋 市橋菜津美
(6) 課題研究成果発表	能勢高校 等	内田千秋 富樫 明
(7) 普及・広報・ホームページ (HP)	能勢高校 等	鹿嶋英滋 横山政幸
(8) アンケート・報告書作成	能勢高校 等	内田千秋 鹿嶋英滋
(9) 運営指導委員会	能勢高校 等	内田千秋 田中翔一郎

課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日～2020年3月31日）											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(1) 基礎知識講座												→
(2) 重点分野講座												→
(3) 海外実態調査				→								→
(4) プトラマレーシア大学WS				→								→
(5) 留学生とのWS												→
(6) 課題研究成果発表							○		○	○	○	→
(7) その他 ・生徒アンケート ・普及・広報・英語HP ・運営指導委員会			○			○				○		→

※計画は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

## 詳細計画

### 2019年度の研究開発実施計画

#### (1) スーパーグローバル(SG) 基礎知識講座

	3年次生：総合的な学習の時間・各教科
4月	「能勢版 SDGs」（箕面こどもの森学園 藤田美保）
5月	「世界に繋がる自己表現～SGHの学びを地域に伝える～」（Cheers Inc. 月田有香）
6月	普及活動①「Save The Children Japan の活動を地域へ活かす」 (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 伊藤愛)
7月	「ボルネオ熱帯雨林の生態系と経済活動」（大阪市立大学 祖田亮次）
9月	普及活動②「古民家活用を地域活性化へつなげる」（農家民宿みちくさ 三上順子）
10月	普及活動③「古民家を生かした教育活動」（コアプラス 武田緑）
11月	普及活動④「グローバルな視点からの復興への取組」（立命館大学 久保田崇）
12～1月	課題研究、校内発表会（能勢地域公開）に向けてのプレゼンテーション準備

#### (2) スーパーグローバル(SG) 重点分野講座

課題研究テーマ マレーシア「経済発展と自然破壊」—プランテーションと森林破壊—

	3年次生：土曜日講習・放課後演習・地域での成果発表
4～8月	「マレーシア サバ州の熱帯雨林とプランテーション（全15回）」 (大阪教育大学 乾陽子) (大阪市立大学 祖田亮次) 「世界の視点から地域を再生する」「能勢を変えるための17の目標“能勢 SDGs”を考える」(地域再生マネージャー 斎藤俊幸)
6月	「地域での発表～世界での学びを地域へ～」(能勢中学校 先輩は語る会) 「フィリピンの貧困対策、マングローブ植林」(オイスカ関西研修センター 清水利春)
9月	「世界での学びを地域へ伝えるには」(Cheers Inc. 月田有香) 「地域への発信を考える」(グループディスカッション)
10月	モンゴルの学びを活かす（モンゴル国立大学、モンゴル教育大学、大阪大学） 「SGHの学びを進路に活かす」(トリガーワークス 松見敬彦)
11月	「SGHの学びを地域に伝え、活かす」(地域再生マネージャー 斎藤俊幸)
12月	「SGHの学びを後輩に伝えるには」(グループディスカッション)
1月	「2年次 GS 講座生徒に伝える～メンターとして指導～」(Cheers Inc. 月田有香)
通年	植林等里山保全活動 (能勢菊炭振興会との協働活動：国土緑化推進機構「緑の募金事業」活用)
	「課題研究英語プレゼンテーション（全5回）」(ナットナー 直子)

#### (5) 海外からの留学生とのワークショップ

内容等	期日・場所・協力大学等	回数	参加人数
マレーシア姉妹校の訪問受入・交流	2019年6月～8月 本校	1	140
英語村訪問	2019年7月 公立鳥取環境大学	1	30
デイキャンプ	2019年10月 大阪国際大学	1	20

オイスカマレーシア高校の訪問受入・交流	2019年10月 本校	1	140
イベント協働参加	2019年11月 モンゴル祭り (在大阪モンゴル国総領事館)	1	10
長期・短期留学生の受入	2019年4月～2020年2月	通年	140

\* SGH後継事業【豊中高校能勢分校 1年次生、2年次生 (SGH対象外生徒) の取組】

豊中高校能勢分校 1、2年次生の取組み (SGH対象外生徒)

- (i) グローカルスタディー (GS) 課題探究基礎講座 (1年次生、2年次生全員)  
外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように計画している。

	1年次生：各教科・産業社会と人間 等
5月	「サバイバルイングリッシュで交流」(元青年海外協力隊 小早川勝平) : 英語
6月	「地域の自然環境とその希少性」: 農業
7月	「GS 課題探究について」: 産業社会と人間
9月	「開発途上国での支援活動」(オイスカ関西研修センター 清水利春) : 公民 「フィリピンチャリティ学習(文化祭)」(オイスカ関西研修センター 清水利春) 「モンゴルチャリティ学習(文化祭)」(大阪大学 今岡良子、エネビシ)
10月	「国際NGOの仕事」(フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 中島早苗) : 家庭
11月	「紙芝居で世界をつなぐ」(やっさん一座 安野だんまる) : 国語
12月	「JICAの役割」(JICA関西) : 産業社会と人間
1月	「環境で世界と日本を繋ぐネットワーク」(公立鳥取環境大学 中橋文夫) : 情報

	2年次生：各教科・総合的な学習の時間 等
5月	「マレーシアの文化紹介」(パナソニック研究所ジャスマーン ジュライヒ) : 地歴
6月	「マレーシアの環境政策」 (APN アジアパシフィックネットワーク ナフサ イズマイル) : 地歴
7月	「世界のために自分でデザインする人生」(関西学院大学 久木田純) : 総合学習
9月	「ボルネオ熱帯雨林の生態系と経済活動」(大阪教育大学 乾陽子) : 理科
10月	「CSR ボルネオ保全活動」(サラヤ株式会社 小辻昌平) : 総合学習
11月	「モンゴルにおけるマンホールチルドレン」 (大阪大学 今岡良子、モンゴル国立大学、モンゴル教育大学) : 総合学習
12月	「文化論から見た国際比較」(箕面市国際交流協会 萩野克彦) : 総合学習
1月	「国際協力活動とは」(元青年海外協力隊員) : 総合学習

- (ii) グローカルスタディー (GS) 課題探究重点講座

課題研究テーマ

- ・「経済発展と自然破壊」プランテーションと森林破壊
- ・地方創生「能勢版シュタットベルケを考える」－再生可能エネルギーと地方創生－

	2年次生：土曜日講習・放課後演習・学校設定科目（後期）「プレ課題探究 GS」
4～9月	「マレーシア サバ州の熱帯雨林とプランテーション」(大阪市立大学 祖田亮次) 「ドイツ ブリロン市 シュタットベルケ～高校生の取組み～」(環境省 川又孝太郎) (みやま SHE 磯部達) (E-konza1 榎原友樹) (能勢町総務課政策推進係) 「SDG s カードゲーム」(箕面こどもの森学園 藤田美保)
10～2月	「能勢を変えるための17の目標“能勢版 SDG s”を考える」(地域再生マネージャー 斎藤俊幸) 「マレーシアサラワク州の熱帯雨林とプランテーション」(大阪教育大学 乾陽子) 「新電力会社について 能勢町で高校生ができること」(環境省 川又孝太郎) (みやま SEC 磯部達) (E-konza1 榎原友樹) (能勢町総務課政策推進係)
	「英語プレゼンテーション WS(全8回)」(ティモシー カーン) (1年次生も参加)
通年	植林等里山保全活動 (1年次生も参加) (能勢菊炭振興会との協働活動：国土緑化推進機構「緑の募金事業」活用)

- (v) 海外からの留学生とのワークショップ

内容等	期日・場所・協力大学等	回数	参加人数
-----	-------------	----	------

マレーシア姉妹校の訪問受入・交流	2019年6月～8月 本校	1	140
英語村訪問	2019年7月 公立鳥取環境大学	1	30
デイキャンプ	2019年10月 大阪国際大学	1	20
オイスカマレーシア高校の訪問受入・交流	2019年10月 本校	1	140
イベント協働参加	2019年11月 モンゴル祭り (在大阪モンゴル国総領事館)	1	10
長期・短期留学生の受入	2019年4月～2020年2月	通年	140